

I 過活動膀胱の総論

① 病態・病因

福井大学学術研究院医学系部門医学領域器官制御医学講座泌尿器科学分野

横山 修, 伊藤 秀明, 青木 芳隆

KEY WORDS

- 病因
- 神経因性
- 非神経因性
- 生活習慣
- 血管内皮機能

はじめに

過活動膀胱 (overactive bladder : OAB) とは, 尿意切迫感を必須とした症状症候群であり, 通常は頻尿と夜間頻尿を伴い, 切迫性尿失禁は必須ではない, と定義されている¹⁾⁻³⁾。病態としては膀胱の不随意的収縮の存在が想定されており, それに伴い亢進した膀胱知覚神経の刺激が中枢へ伝達され尿意切迫感のような異常な症状が発生する。神経因性と非神経因性の原因がある。圧倒的多数を占める非神経因性OABの病因としては, 肥満・高血圧・脂質異常・耐糖能異常などに関連する血管内皮機能障害, 内臓脂肪由来炎症性サイトカインの増加, 自律神経系の活動亢進が直接あるいは間接的にその発生に関わっていることが解明されている。

I. 過活動膀胱の定義と分類

過活動膀胱とは, 尿意切迫感を必須とした症状症候群であり, 通常は頻尿と夜間頻尿を伴い, 切迫性尿失禁は必須ではない¹⁾⁻³⁾。したがって, OABは4つの要素(尿意切迫感, 頻尿, 夜間頻尿および切迫性尿失禁)から構成される。OABの病因は, 明らかに神経疾患に起因すると考えられる神経因性とそれ以外の非神経因性の2つに大別される。表に神経因性OABをきたす主な疾患を挙げた³⁾。本稿では『過活動膀胱診療ガイドライン』第1版⁴⁾と第2版³⁾を参考に, 病因とその発生メカニズムについて概説する。

II. 神経因性(表)

OAB症状もさまざまな神経疾患で生じることが知られているが, 基本的には「尿意切迫感」という尿意を感じることでできる疾患に限られ, 尿意の

Osamu Yokoyama (教授)
Hideaki Ito (准教授)
Yoshitaka Aoki (講師)